



発行
宮崎県立高鍋高等学校
同窓会

宮崎県児湯郡高鍋町
大字北高鍋4262
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096
URL http://www.narumioka.jp/

和を想う

同窓会会長 増田 秀文



鳴海ヶ丘会員の皆様におかれましては、ますます御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。さて、平成22年度のOB祭は「和〜手をつなごう〜」というテーマのもと、松田光生実行委員長を中心と昭和62年卒の皆様が担当されました。口蹄疫の発生によりその内容を大幅に変更してのOB祭でしたが、本当に素晴らしい内容だったと感激をしております。

母校の為に何か協力できることはないかと模索しています。平成24年に高鍋高校創立90周年を迎えるにあたり、その記念事業も検討しているところです。会員の皆様の御意見、御協力を賜りたく思っております。また、昨年は新しい同窓会名簿が発行されましたので、ぜひ御利用頂けたらと思います。

卒業生の皆様、御卒業おめでとうございます。これからは高鍋高校での教えを胸に志を高く持ち、卒業生であることに誇りを持って新しい社会に立ち向かって下さい。若い時の多くの人の出会いは自分を磨く為にも、成長させる為にも大切だと思います。どうか積極的に人との出会いをはかって下さい。

幸い、高鍋高校同窓会は県内9ヶ所、県外4ヶ所に支部があり、毎年盛大な「OB祭」も開催をされ年代を超えた会員の親睦が図られています。多くの人の出会いの場になることと想います。先輩方も皆様の活躍を期待されておられますし、出会いを楽しみにされていると思えます。

高鍋高校同窓会「鳴海ヶ丘会」への出席を心よりお待ちしております。高鍋高校づくりを考える会」で

岩岡会長・藤本事務局長 の退職記念祝賀会

同窓会事務局次長 猪股 司

岩岡保宏前会長と藤本範行事務局長のご退職記念祝賀会が、昨年11月3日（祝）にホテル四季亭で行われました。小澤浩一高鍋町長を始め、歴代の校長、OB祭実行委員長ら76名の方々が出席されました。会は大盛況に行われ、ご両人の長年の功績を讃え、感謝状と共に田中隆吉高鍋美術館長が制作した絵画を記念品として贈呈いたしました。



● 学校間交流を終えて

生徒会担当 菊池 誠

平成12年から毎年行われてきた学校間交流も、今回は10回目という節目を迎えた。今回は、興譲館高校から佐藤校長先生、土井先生、ならびに生徒自治会6名を高鍋に迎えた。初日は、交流夕食会が行われ、川野副町長をはじめとする多数の来賓の方々にご出席いただき、両校の交流も深まった。2日目からは、全校歓迎式典や生徒会交流、交流昼食会、HR交流などを通して生徒同士の交流はさらに深まった。活発な意見交換なども見られ、お互いの学校にとって有益な刺激となったに違いない。児湯地区巡検の中では、JA尾鈴の方々にご協力いただき、昨年度宮崎県で発生した口蹄疫の被害の状況をうかがい、被災農家の大変貴重な経験をさせていただいた。短い時間ではあったが、生徒同士が打ち解けるには十分だったように、空港では別れを惜しむ姿が至るところで見られた。そういった意味でも、今回の学校間交流は成功だったと言えるであろう。ご協力いただいたJA尾鈴をはじめとする関係諸機関や、多方面に渡りご支援いただいた本校先生方から感謝したい。

● 学友団活動について

(川南・多賀小地域) 307 鬼塚 未歩

私たちは、十文字保育園でクリスマスパーティーをしました。子どもたちも喜んでもらえるような活動の直前まで学校で練習を行いました。本番では、子どもたちも一緒に歌い、多くの笑顔を見ることができ、大成功をおさめました。最初は、不安な気持ちもありましたが、子どもたちと触れ合うことで、心が和み、来てよかったと思えました。今回の活動を通して、私が目指す保育士の勉強にもなり、より保育士になりたいという気持ちも強くなりました。園長先生には「実習は、ぜひうちの保育園へ来なさい。」と言われ、とてもうれしかったのを覚えています。私にとって最後の学友団活動でしたが、とても心温まる充実した活動ができ、思い出深いものになりました。今後も、地域に貢献でき、みんなの進路につながる活動が広がっていくことを願っています。



● 郷土愛を深める地域学習

地歴公民科主任 大田原 勉

今年も郷土愛を深めた3日間だった。11月9日（火）〜11日（木）、1年生275名全員が、クラスごとにバスに乗り地域学習に出かけていった。今年も、昨年と違い好天に恵まれ十分な地域学習ができた。各バスに同乗された地歴公民科の先生方の説明も良かったようで、アンケートの「郷土への関心は深まりましたか」という問いに対し、「非常に深まった」と「やや深まった」を合計すると毎年97%を維持しているのだが、今年はその付け加えて、「非常に深まった」という答えが、昨年の40%から50%へと増加した。また、生徒の感想の中には、「高鍋の良さを知り、鍋高生として誇りを持てた」、「いろんな感動をもらいました」、「生きていく上でとても大切なことを学びました」等々地域学習に対しての好評しかなかつた。来年度は、地域学習をもっとより良いものにするためにリニューアルして実施する予定である。

● 平成22年度 修学旅行

教頭 永井 隆

日光は日本刀の切っ先のような師走の雨の中に見ながら、改修中の輪王寺を横目に見ながら三猿、陽明門と型通りの説明が続いた。服を通った雨は容赦なく身体中から熱を奪った。明日のことを考えそこそこに切り上げると、二日目は雨が雪に変わることを期待し朝を迎えたが、雪は遠く、スキー場はメルヘンとまではいかなかった。30分ほど雨が上がるのを待って270名の生徒ははじかれるように丸沼高原スキー場に散っていった。高原には若い笑い声と豊かな運動エネルギーが溢れた。人工の中の大自然を自然そのものと錯覚し雪にまみれた二日間だった。1500メートルもある高原と比べると東京は別世界であった。デイズニードではお土産という夢を買い、ホテルからは富士の勇姿を仰ぐことができた。事故もなく、たいした病人も出ず、食事、ホテルの対応など全てが満足いくものだった。森羅万象に感謝。

● 23年度センター試験を振り返って

高鍋高校進路指導主事 末吉 昭夫

去る1月15日（土）と16日（日）の両日、震え上がる寒さの中、本校生徒198名が大学入試センター試験に臨んだ。試験場が昨年までの南九州大学から宮崎公立大学に移ったために、前日14日の下見を入れると宮崎市内で3日間のバス利用を余儀なくされたが、大きな混乱もなく、第1段階をクリアしてくれた。センター受験生総数は558、984人で昨年より増えている。総合点は昨年より理系教科の点数が伸びており全体的に強気の出願が予想される。経済不況の影響で、医療看護系や教育学部など資格取得を目指す学部が集中し、かなりの激戦になりそうである。本校生も、目を返して3者面談を実施、2月2日、2月3日の順に進路提出に向けて緊張感が増している。これから入試本番の2月25日に向け、生徒達の健闘を心から期待している。頑張れ、受験生!!



● 部活動紹介

ラグビー部 207 橋口 幸夫

1月20日からラグビー新人戦大会が行われました。去年のこの大会では準決勝で負けてしまいましたが、悔しい思いをしました。なので今年には絶対に優勝してやるという気持ちで大会に臨みました。一回戦は延岡工業として勝つことはできましたが反省点の多い試合でした。決勝は去年負けた日向高校でした。去年の思いがあり全員がまとまって試合に臨みました。試合中は全員が声を出し続け、自分達のラグビーができました。そして優勝ができました。優勝できたのは周りの方々や3年生の先輩のおかげです。

九州大会では、常に感謝の気持ちを持ち忘れず、自分達のラグビーを貫いて戦っていきます。

● 放送部

12月の第32回九州大会熊本大会に出場してきました。



● ホッケー部

ホッケー部 主将 長友 遥香

私達ホッケー部は現在11人で活動しています。ホッケーは11人でプレーする競技なので、誰一人怪我をすることも欠けることも出来ません。その状況の中、新チームになって今まで休みなく頑張ってきました。九州大会ではその成果が実り、3月25日から岐阜で行われる全国選抜大会に出場出来る事になりました。このことに満足することなく、全国大会一回戦突破を目標にこれから頑張りたいと思います。

● 剣道女子部

205 椎葉 桃子

今年度は、新チームになり新人戦ベスト4に入ることができました。高鍋高校は進学校ということで、部活だけを頑張れば良いという学校ではありません。他の高校よりも練習時間が短く、練習試合や遠征等も少ない中、県でベスト4に入れた事がとても嬉しいですね。

これから総体にむけて、ベスト4以上の結果が残せるように一つ一つの練習メニューを大切に、日々の学校生活もしっかりとしたものにしていききたいと思えます。残り少しの部活動生活の中で最後の総体の結果に悔いが残らないように頑張っていこうと思えます。

宮崎地区支部会報告

宮崎地区同窓会幹事 財津 吉長

本年度の宮崎地区同窓会は、平成22年11月19日(金)、宮崎駅近くのニューウエルシティ宮崎で行いました。来賓として、増田同窓会長と前岩岡会長、前田校長先生、藤本同窓会事務局長、同猪股次長、黒岩鳴海ヶ丘会館長をお迎えし、また、次年度のOB祭実行委員の皆様に参加していただき、総勢106名の盛大な会になりました。会では、学校現況について、学校長と猪股事務局次長から詳細の報告をいただき、また、次年度のOB祭について木下実行委員長の説明など、出席者は、母校の様子に思いを馳せ、支援の気持ちを強くすることができました。



交流が深まったところで、出席者が持ち寄った景品でお楽しみ抽選会を行い、最後は、全員で肩を組み、校歌と応援歌を声高らかに合唱しました。会場は、旧交を温める人たちの輪、新しい出会いの輪など、母校を愛する人と人の輪が大きく広がり、熱気おさまらぬなか黒岩先生の万歳三唱で終わりました。この宮崎地区同窓会は、企業、行政、学校など異業種間の交流を深め、高鍋高校支援の輪を広げようという趣旨で先輩方がつくってきた同窓会の伝統を引き継ぎ、数年前から、宮崎支部と県庁支部、宮崎市役所支部が協力して実施してきました。案内が届かない、若い人や女性の参加が少ないなどの厳しい意見をいただきましたが、この伝統をしっかりとつないで、母校の発展に貢献したいと願っています。

最後にありますが、同窓会事務局の皆様には、諸連絡や学校資料の提供など何かとお世話になりました。お礼申し上げます。現役諸君のさらなる活躍をお祈りします。

高鍋地区支部会報告

高鍋支部長 山本 邦紘

高鍋支部では、総会に合わせて各界の方にお越し頂き、講演会を開催しています。本年度は11月25日に高鍋町美術館において前高鍋高校同窓会会長の税田格十氏に「高鍋高校の歴史を想う」という題で講演(税田氏は講演ではなく講話だよというこ

とでした)を頂きました。講話の内容は、秋月藩から最近に至る高鍋が生んだ先人の話や、氏が在籍していた頃の高鍋高校(氏は高鍋高校第1回卒)の状況を詳しく話して頂きました。まさに氏が話されると、偉大な先人が私達の身近なところに先輩として居られ活躍をされたこと、また氏の時代の高鍋高校生の想い等が目の前に浮かび、感動を呼び起こして頂いた時間でした。そして氏がおっしゃられたように、先人達が残してくれた志というものは、脈々と高鍋高校生には残っているのだなと思つた瞬間でもありました。当日の参加者からは、私達だけで聞くのは勿体ないので、高校生や他のOBにも聞かせてはと多くの感嘆の声がありました。機会があったらぜひお話をしようという勝利に思っています。本当に税田先輩ありがとうございました。

福岡支部総会報告

福岡支部事務局長 原 誠子

鳴海ヶ丘会福岡支部総会を昨年の11月27日(土)にクリオコート博多にて18時より行いました。

今回は総会の前に、中武清様(S30年卒)より郷土の偉人「石井十次先生」について主に講演をして頂きました。故郷をいま一度思い返す大変有意義な時間を皆で共有できたのではないかと思います。

参加人数は48名で、前回よりは若干少なかったのですが、総会・懇親会と盛会のうちに終れたのは皆様のご協力のおかげであると感謝しています。懇親会では、恒例の児玉支部長とのじゃんけんゲームや福引などで景品を出席者全員にお渡しすることができました。それと、少しずつですが若い方の出席者が増えてきていることは今後の福岡支部の大きな支えになってくれると期待しています。昨年の口蹄疫では甚大なる被害が出た児湯郡。総会の中でも様々な状況を聞き胸が痛みました。そして今また、鳥インフルエンザに新燃岳の噴火と遠く離れた宮崎の事を心配しない日は一日もありません。早く元気を取り戻してほしいと願うばかりです。最後になりましたが、高鍋より総会へご出席頂きました増田新会長及び前田校長、橋口副会長、藤本事務局長、猪股事務局次長、23年度実行委員の方々本当に有難うございました。今後は一人でも多くの方が福岡支部総会へ参加して頂けるよう、児玉直支部長のもと協力し鳴海ヶ丘会の伝統を大切にしていきたいと思っております。

H22年度 高鍋高校同窓会 名古屋支部総会 紹介

名古屋支部事務局長 福本 秀和

平成22年12月4日(土)名古屋支部総会を開催、増田新同窓会会長、前田学校長、藤本同窓会事務局次長、甲斐在京同窓会副会長、永友関西同窓会会長に加

え、初めて来年度のOB祭実行委員の杉田事務局次長と矢野事業推進局長にもお越し頂きました。また今回の講演を、現在明治大学で歴史を勉強中の下川洋一氏(S42年卒)にお願いし、「鶴山と鷹山」というテーマでお話いただきました。



S30年卒中武清氏講演

本年度のOB祭が口蹄疫の支援事業に終始したことは残念なことでしたが、今年の方も併せて来年度は頑張るぞとの実行委員の心意気を伺い、来年は名古屋からまとまってOB祭に出席しようかとの声上がるほどでした。また故郷の歴史については、下川氏の面白おかしい語り口と、史友会在京支部の甲斐・久保両氏のアドバイス等で楽しく有意義な時間が過ぎました。最後に、新役員を加えた体制で来年度も頑張つて行こうとの意思統一を図り、後は「しおまめ」での二次会が延々と続いたことは言うまでもありません。

「奇贈および寄付」

平成22年度OB祭実行員より、会議用テーブル6台を学校に奇贈していただきました。ありがとうございました。

◎「昭和44年卒同窓生一同」より学校に10万円寄付をいただきました。ありがとうございました。

【同窓会育英会 会長賞表彰者】

普通科

奥谷 将光(303) 三輪 優子(304) 小野 翔貴(306) 稲垣 美佳(307)

生活情報科 稲垣 美佳(307) おめでとございます。これからも益々頑張ってください。

平成23年度OB祭について

事務局長 杉田 将也

来年度OB祭を担当させていただきます。昭和63年卒業生を代表してこれまでの進捗状況を報告いたします。

私たちは、昨年9月に実行委員会を立ち上げ、まずは同窓生の気持ちを集結させる取り組みに全力を注いでまいりました。1月の全体同窓会、

関東・福岡・宮崎各支部における同窓会を通して、同窓生の輪は大きく広がってきています。

「奏(かなでる)〜みんなひとつ〜」を平成23年度OB祭のテーマに決定し、現在イベントの企画案等に取り組んでいます。

昨年の鳴海ヶ丘会宮崎支部・福岡支部総会(11月)、名古屋支部総会(12月)には、それぞれ役

Table with 3 columns: Role (役), Name (氏名), and Position (職). Lists members of the 23rd year OB festival execution committee.

平成22年度 部活動成績報告

Table showing sports and cultural activity results for the 22nd year. Columns include Competition Name (大会名), Department (部名), Category (種目), Individual Name (個人名), and Achievement (成績).

なんきんはぜ

2月2日に本校生が、恒例のナンキンハゼ並木の剪定作業を行った。本校のシンボルであるナンキンハゼの並木道は、昭和十年旧制高鍋中学校第4代校長の秋月種彦先生の時代に70本の苗木を植えたのが始まりである。「通学道路を、並木で美しくするおいのある道にしたい!」という秋月校長の願いで作られた並木道。その後、様々な困難を乗り越えて70年以上経った現在にまで続いている。

高校生時代、毎日通った並木道。その時はあまり考えてはいなかったが、先人たちの熱い思いを知って、今更ながらに高鍋高校の伝統の重さを感じる。(同窓会事務局次長 猪股 司)